

つまり、患者の膝の屈曲の程度によってそくよ君とベースンを使い分けることで、それぞれの患者にあった安定感のある効率よい足浴を実施できることがわかった。

V. 結 論

1. 効率よく容易に足浴を実施ができる。
2. そくよ君は三角枕を使用することにより安定感が得られ、リラックスした状態で足浴を受けられる。

3. 三角枕があることで下肢の位置がずれにくく、足浴中の体勢の整えなおしが最小限で行える。
4. そくよ君とベースンを使い分けることでそれぞれの患者にあった安定感のある効率よい足浴を実施できると考える。
5. そくよ君の改善点は以下2点である。
 - 1) 三角枕の頂点の角度を変更する。
 - 2) 三角枕の下腿の接する面の長さを変更する。

頰椎・腰椎手術患者へのオリエンテーション用紙の改善

8-2 病棟 安藤理奈 高橋涼子
大石千晴 萩原弘美恵
吉田奈々

I. はじめに

整形外科病棟では手術を目的に入院してくる患者が多く、入院前からクリティカルパスを渡し入院後は手術前日から翌日までの経過が記入された全疾患対応の術前オリエンテーション用紙を使用し説明していた。しかし頰椎・腰椎の手術を受けた患者の多くは術後の生活がイメージできておらず入院後の術前オリエンテーション用紙に問題があると感じた。術前オリエンテーション用紙改善に向けて取り組み、術後安心して生活を送る為のオリエンテーションに必要な情報が何かを考えることができたので報告する。

II. 調査方法

改善前の術前オリエンテーションを受けた患者と、それを実施した看護師にアンケートを配布。結果をもとに術前オリエンテーション用紙を改善し作成、その用紙を使用したオリエンテーションを受けた患者とそれを実施した看護師に再度アンケート調査を行った。

III. 結果・考察

改善前の術前オリエンテーション用紙に対するアンケート結果では、「術後の生活がイメージできていた」と回答した患者は半数以上だった。これに対して9割の看護師は、「患者が術後の生活を理解していない」と回答し、実際の生活場面において、安

静度・食事・装具の装着・体交・排泄について理解しにくく、指示も守れていないとの意見が集まった。そこで新たに、安静度・食事・装具の装着・体交・排泄について焦点を絞り写真を挿入、文字も大きくしてふりがなをつけた頰椎・腰椎専用の術前オリエンテーション用紙を作成した。術後の経過も車椅子乗車可能となる日（術後3日目）までの予定へと変更した。改善後の術前オリエンテーション用紙に対するアンケート結果では、「術後の生活がイメージできていた」と回答した患者も、「患者が術後の生活を理解していた」と回答した看護師の数も増加し、効果が得られたと考える。写真の使用や文字の大きさについての質問では「見やすい」との意見が多く、患者が術後をイメージするのに有効だった。しかし一方では、研究期間中に安静期間が短縮され（手術方法の変更に伴うもの）症例によっては術前オリエンテーション用紙とのずれが生じたことで混乱してしまった患者もいた。

IV. 終わりに

術前から術後の生活をより具体的にイメージするためには、術前から医師と情報交換を行い、術後の経過の中でも患者の生活場面に焦点を絞って読みやすい文章と写真で解りやすく説明する事が有効である。